

情報共有
(非管理メモ)

菅野 昭彦
2011年6月26日
(分室の)

菅野 昭彦
2011年6月26日

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 6 月 26 日 (日) 11:00~11:40

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 25 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- 福島第一原子力発電所・プラント関連パラメータ (6月26日6時現在)
- 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 現時点で 3 号機使用済燃料プールへのホウ酸水注入は開始しているのか。また今日明日で使用済燃料プールにホウ酸を注入する予定に変更はないか。

A. 既にホウ酸水の注入作業を開始している。また今日と明日の 2 回に分けて使用済燃料プールにホウ酸水を注入する予定。

Q. 1 号機使用済燃料プールにもホウ酸を注入することだが、注入の時期はいつか。

A. 具体的な時期は未定。

Q. 事故後 3 ヶ月で使用済燃料プールのラックの腐食ほどの程度進んでいるのか。

A. 現時点で腐食が進んでいるというよりは、将来的な腐食防止の観点からホウ酸水を注入する。

Q. ホウ酸水の注入量が 45 t とのことだが本日 1 日での注入量か。

A. その通り。明日もホウ酸水 45 t を注入予定。45 t の注水量はあくまで水と合わせた量であり、注入するホウ酸の濃度は約 2 % 程度。

Q. 3 号機使用済燃料プールへの注水は放水車から実施するのか。

A. 使用済燃料プールの冷却浄化系ラインから注水する。

Q. 今日中に SMZ、H スキッドのベッセル交換作業は終了するということか。そうした場合、本格運転のタイミングはどうなるのか。

A. SMZ スキッド、H スキッドのベッセルは本日中に交換予定。水処理システム本格運転への移行時期については、ベッセルの交換基準や頻度、フラッシングの時間等セシウム吸着装置の運用方法について明日検討を行ってからとなる。また塩分除去装置で処理した水も溜まっていることから、明日点検・準備が終了すれば原子炉に戻すことは可能と考えている。

Q. 本格運転を開始するのは本日中か。

A. 水処理装置については、明日運用方針を決定後、本格運転へ移行したいと考えている。その際に循環注水冷却への移行についても併せて判断したい。

Q. 1号機原子炉カバーの設置工事を予定している6月27日は、天候が悪いようだが工事は予定通り実施するのか。

A. 保安院での安全確認は既に終了しているが、天候不良の影響により道路の敷設作業が進んでいないことなどから、当初6月27日からの開始としていたが、開始日を6月28日に移行した。ただ28日に工事を実施できるかどうかは、天候に左右されることから当日の天候をみて判断したい。

Q. 天候に左右されるというのは雨の影響か。それとも風の影響か。

A. 風の影響。クレーンを使用しての作業となることから、ある一定以上の風が吹くと作業を中止せざるを得ない。

Q. ある一定以上の風とはどの程度の風か。

A. 確認させていただく。

Q. 2号機原子炉で作業している仮設圧力計の校正作業は現在どのような状況か。

A. 本日は作業の予定はない。計器構成の仕方や水の蒸発への対策を検討しているところ。

Q. 現時点で施設内に溜まっている水の総量はどの程度か。

A. 昨日段階で約4,900 tの汚染水処理を終えているが、そのうち1,200 tが淡水化装置に流れており、最終的には約480 tの水が塩分除去され循環注水冷却用の水として溜まっている。

A. 当初タービン建屋の溜まり水の総量を約105,000 tと評価していたが、原子炉からの漏出分を考慮すると、現在約11万 tの溜まり水が溜まっていると推定される。ただし、日々での評価は行っておらず、水処理の状況と水位で管理をしている状況。

Q. 溜まり水の総量は水処理システムの稼働により減少しているのか。

A. タービン建屋の溜まり水やプロセス主建屋の水位が低下していることから溜まり水の処理は順調に進んでいると考えている。

Q. 使用済燃料プールのラックの腐食防止のためにホウ酸水を注入することだが、プールの壁や燃料集合体に影響はないのか。またプール水がアルカリ性だとなぜラックの腐食が進むのか。

A. プールの壁はステンレス、燃料集合体の構成材料はジルカロイであり、アルカリ性による腐食はないと考えている。一方ラックの素材はアルミニウムでありアルカリによる腐食が懸念されることから、ホウ酸を注入して中和する必要がある。

Q. ラックの腐食により燃料集合体が倒れることを懸念しているということか。

4

A. ラックが腐食すること燃料集合体が傾き破損する可能性があることから、防止策としてホウ酸水を注入する。

Q. 燃料集合体が倒れるとどのようなことが懸念されるか。

A. 最悪のケースでは再臨界の可能性もある。

Q. 3号機使用済燃料プールにある燃料集合体の総本数ほどの程度か。

A. 全部で566体入っている。内訳は新燃料が52体、使用済燃料が514体。

Q. 循環注水冷却の配管のリークチェックの予定は決まっているか。

A. 明日の日中になるかと思うが、現時点では未定。

Q. 水処理システムの運用方針に関して、ベッセル取り替えの際にはフラッシングを実施する予定なのか。

A. 現時点では未定。被ばく線量低減の観点ではフラッシングが必要だが、ベッセルの交換が短時間で終了すればフラッシングをしない可能性もある。

Q. 3号機の使用済燃料プールがアルカリ性になっている原因は何か。

A. プール中に大量の瓦礫が入っているが、コンクリートから水酸化カルシウムが溶出していると思われる。

Q. 3号機使用済燃料プールのpHほどの程度か。

A. 11.2。

Q. タービン建屋の溜まり水はアルカリ性なのか。

A. 2号機タービン建屋の溜まり水のpHは7.1なのでほぼ中性。

Q. 水処理システムの試運転をベッセル交換作業の関連で停止しているが、いつまで停止する予定なのか。

A. SMZベッセルを3塔交換後、運転を再開する予定。

Q. 水処理システムの除染形数の最新値はあるのか。

A. 現時点で新たなデータはない。今後、SMZスキッドが4塔シリカサンドとなった後にサンプリングを行う予定。

Q. 水処理システムの油分離装置の水位計に不具合が発生しているが、本日の運転に関しては問題ないのか。

A. 水位計はアウトサービス済であり、現在順調に運転している。

Q. 2号機への窒素封入作業の準備状況は。

A. 仮設の窒素発生装置、所定の接続点までのホース接続は完了している。現在、原子力安全・保安院にて当社から提出した報告書を審査頂いている段階であり、まだ了承は得られていない。

5

Q. 福島第一原子力発電所の作業員の熱中症は最近発生していないのか。

A. 6月24日に会見で公表した以降については発生を確認していないが、医務室に休憩している人間はいるかもしれないため、改めて最新状況については確認させていただく。

Q. 4号機使用済燃料プールのpH値が低いのは、プール内に落下しているガレキの量が少ないということか。

A. 4号機の使用済燃料プールのpH値は7.2であり、プール内へのガレキの落下量は少ない状況と判断している。

Q. 福島第一原子力発電所各号機の使用済燃料プールのpH値はあるのか。

A. 1号機は10.2、2号機は7.2、3号機は11.2、4号機は7.2、共用プールは6.1であった。本数値は、放射性物質の核種分析結果にてお知らせしている。

Q. 1号機使用済燃料プールについてはpH値が高いが、ホウ酸注入を実施する予定はあるのか。

A. 検討する必要があると考えている。

Q. 1号機原子炉建屋カバー設置作業については、小名浜港における船への部材の積み込みおよび福島第一原子力発電所への移動のスケジュールは。

A. 具体的にどの部材をいつ運ぶのかについては確認させていただく。

Q. 水処理システムの運用方法については、明日までに何を確定させる必要があるのか。

A. 当初、ベッセル交換時に作業員被ばく線量低減のために表面線量が4mSv/hになった段階で交換することを検討していたが、汚染水を流すことで表面線量が4mSv/hを超えてしまうことが発生しており、4mSv/hの値そのものを見直すことが必要と考えている。まずは通水しながら線量の上昇傾向を確認し、交換の目安を決める。また既にベッセルの交換作業を実施していることから、交換にかかる作業時間や作業員の被ばく線量を評価し、フラッシングが必要かどうかを決めることになる。

Q. 表面線量4mSv/hの交換基準値についても見直す可能性があるのか。

A. 値を見直すことと、フラッシング後に4mSv/hになるように運転するための表面線量の値を確認することが必要となる。

Q. その他運用方法について検討すべき課題はあるのか。

A. これまでのトラブルシューティングにおいては特に無いと考えている。ラプチャーディスクに関しては、通水中は閉めるという運用方法に変更済である。

以上